

HOTBIKE

Japan

THE MAGAZINE FOR HUMAN BEINGS WITH
HARLEY-DAVIDSON

ポスター付き
1200円
+税
販促キャンペーン!

BROTHERHOOD 2

日本一周
6122kmのキャノンボール

WOMAN IN IRON
二輪鉄女

STURGIS MOTORCYCLE RALLY
75年目のステージス



VOLUME **146** November 2015

NEW ORDER
CHOPPER SHOW

全137台+インプレッション



CUSTOM MOTORCYCLES TRIJYA

圧倒的なフォルムと快適なライディング

Phone 072-970-3110 www.trijya.com

毎年圧倒的な存在感を示すブースで来場者のド肝を抜く大阪トライジャ。地元開催となった今回は迫力のマシン5台をエントリー、ニュースクール系ファンを中心に熱視線を浴びていた。

トライジャの特徴は手の込んだハイテク手法はもちろんのこと、その走りのキレにある。今回走らせた4台もいずれ劣らぬ楽しさが印象的だ。

ツインカムのFXDFファットボブをベースにプロチャージャー製のインタークーラー付きスーパーチャージャーを搭載したハイスピードクルーザー。ワンオフの22リッタータンクがブレスチャーを与えるが、走り出せば扱いやすさはツアラーより軽快。ひとたびスロットルを捻れば乗り手を襲う強烈なパワー。車の世界でも評価の高いプロチャージャーの完成度は特筆ものである。

横を走るV・RODはノーマルのフォルムを近未来化させた流れるようなボディデザイン。300ワイドのリアタイヤながらオフセットなしでセンターラインにセットすることにより、ワイドならではのクセを徹底的に排除。路面からの外乱でもハンドリングに影響は感じず、コーナーでの寝かし込みも「ノートルだ」。

ワンオフビルドの「メビウス」を前に、その長さに絶句。しかしさ打ち跨るとポジションは意外なほどゆとりがあって、フロントタイヤが見えないから長さもさほど気にならない。大きく手前に引かれたハンドルを切って曲がるうとすると外側のグリップが遠くになってしまうのは予想外だが、コーナリングにクセもなく、普通に走れるのには驚いた。これならチョイノリの足としても使えるナ。走らなければ意味がない。いかついルックスと気楽な走りの対比。走って初めて分かるトライジャの魅力である。

右は現行のソフテイルで唯一のFX系モデルとなる人気のブレイクアウトを、ノーマルのフォルムを活かして徹底したドレスアップを施した一台。自社ブランドの「刻美」パーツを多用している。左はロッカーCのユニークなストックスタイルを継承しつつ、リアに360ワイドタイヤを履かせている。ユニークなエアフィルターとマフラーにも注目。





用一体型タンクシートをベースとし、徹底的に手を加えて生み出されたシンプルなボディが、アルミスイングアームで300ホイールをマウント、リアサスはオーリンズ。ターンアウイブがユニークなマッチング。ライン上に配置したフレキシブルなLEDを使用したストップはスマートなアイデアだ。



ストックエンジンにスーパーチャージャーで究極の過給チューンを与えた一台。ダイナグライドをベースとし、ワイドなワンオフストレッチタンクを装備。前後PMのライトウエイトホイール、フロントは6ポッドキャリバーをダブルで配し、リアサスは特注のオーリンズと、ハイパワーにバランスするハイグレードな選択となっている。2本出しのエキゾーストはスクリーミンイーグル。





ワンオフビルドのシングアームフレームはスチールモールディングでフェューエルタンクとサーフェスし、エッジの効いた曲線が流れるようなラインでシートに落とし込む。ボリュームあるタンクは思い切り絞り込んだウエストを経て300ワイドのリアタイヤへ。S&Sのビッグモーターを心臓に抱くメビウスは、アメリカのピンナップガール並みのグラマラスだ。

ネスを超越するエスカルゴ



2012NOCSでボヘミアンピックを獲得したPhloxを走らせた。選者をして「ネスを超えた。今後私はエスカルゴ岡田と改名します」と言わしめた逸品。生き物のような有機的ボディは長大なフォルムを膨張色でさらに強調、スーパーチャージャーで武装。リアの20インチタイヤゆえかやや立ちもの強さを感じるものの、他作と同様その走りは素直で扱いやすい。鞍座にあってはピカイチの存在感。「ネスを超えた」というのはあながち